

内閣府 第2回 地域で津波に備える地区防災計画策定支援検討会
取組み事例紹介

復興支援から学んだ地域創生

「産官学民」の協働的实践が創出する「知」のネットワーク

2018年9月18日

富士ゼロックス(株) 復興推進室 室長
一般社団法人 遠野みらい創りカレッジ 代表理事

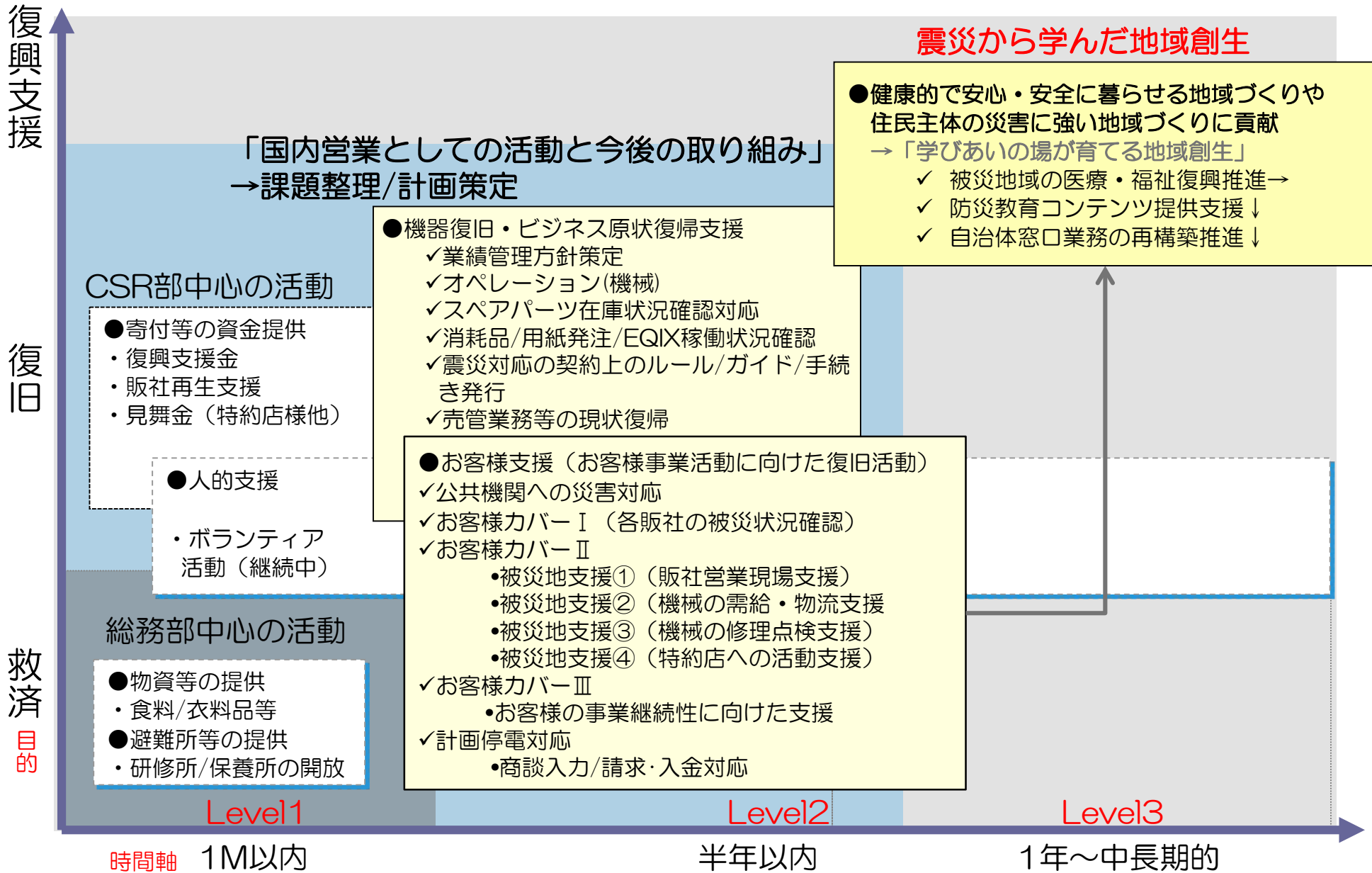
樋口 邦史

本日のテーマ

- ✓ 復興支援活動の実践を通じて得た「みらい創り」活動とは。
- ✓ 産官学民が連携した防災/減災による地域創生は可能か？

東日本大震災からの復興
生産現場と連動した顧客接
点回復活動

富士ゼロックスとしての復旧・復興の全体像



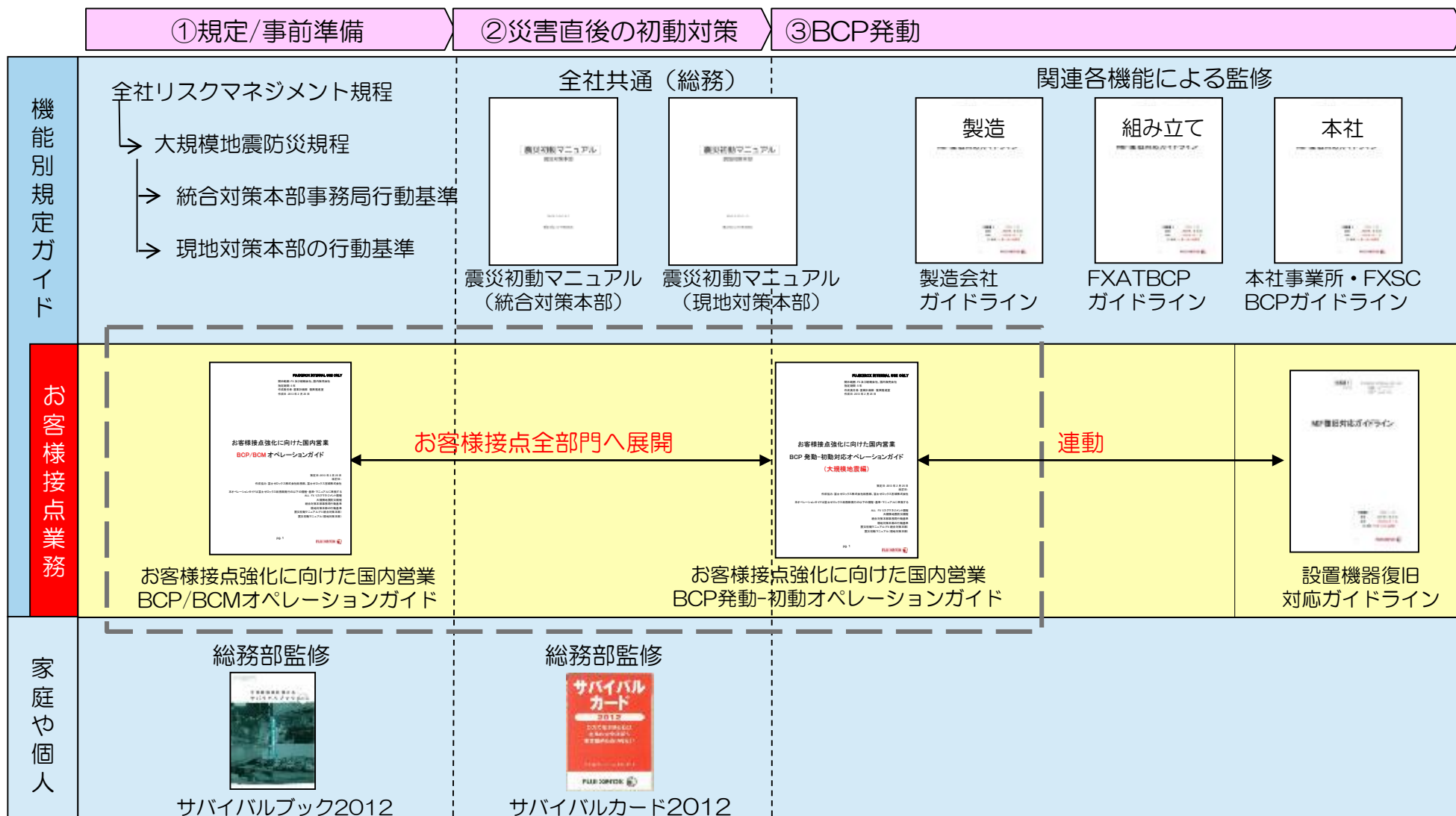
SCMの視点での、リスクマネジメント強化活動

- 東日本大震災を教訓に、サプライチェーン全体で課題への対応を実施
- 毎年、3.11に、各部門の取り組み状況の確認を兼ね、全社CSR会議を開催

視点	項目	3.11以降取り組んできた主な課題
経営基盤の視点	従業員/拠点の安全等初動対応	<ul style="list-style-type: none"> ① 安否化確認、災害備蓄、津波対策等の方針と防災インフラの見直し ② 情報の把握と統制強化（被災地の教訓の全社展開） ③ 首都直下型震災発生時の本部機能維持
	情報システム	<ul style="list-style-type: none"> ① 重要システムの稼働補保証するデータセンター機能維持 ② 堅牢なデータセンターへの重要システム移転が未完了 ③ 拠点に分散していた周辺システムへの電源供給不安の顕在化 ④ ITによる被災地支援とコミュニケーション確保
事業の視点	商品供給	<ul style="list-style-type: none"> ① 代替調達、代替生産、BCP在庫を組み合わせた商品供給機能の維持 ② 2次3次仕入先を含むサプライチェーン可視化による滞納の迅速化 ③ 有事における対応ガイドライン制定とBCP訓練の実施
	お客様接点	<ul style="list-style-type: none"> ① 被災マシンの復旧対策 ② お客様の事業継続活動に対する支援 ③ 大震災活動をきっかけとした事業モデルの創造 ④ 商品供給機能や関連会社と連動したBCPの策定
社会貢献の視点	被災地支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 本業による支援の推進 ② 人的、物的、金銭的支援の推進

顧客接点強化としてのBCP/BCMの策定

- 全社リスクマネジメント規定及び、発災後の行動基準（初動マニュアル）に準拠し、お客様接点・事業復旧を実践化した「オペレーションガイド」として、関連部門と連携して展開。



岩手県での復興支援活動

岩手県での支援活動に焦点化

- 盛岡に拠点を構え、**沿岸被災地**、被災地を**後方支援した遠野**で復興推進活動を実施
- 釜石/久慈医療圏での**在宅医療サービス**、遠野での**みらい創り活動**が支援活動の軸

- 岩手県におけるこれまでの主な取り組み -

I 盛岡市；岩手県の復興拠点

- FX復興推進室が拠点設置（11年10月～）
- 東北みらい創りサマースクール企画/協賛（12年8月～）※5年連続で参加
- 岩手医大を中心としたメディカルメガバンク構築支援（13年9月～）

II 釜石/大槌；大規模な被害にあった沿岸地域

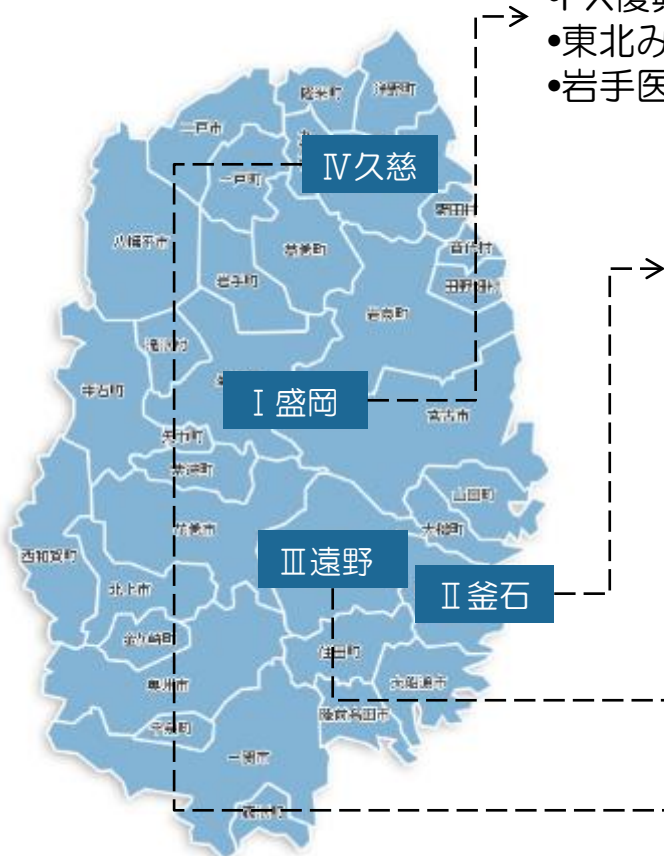
- 複合機の無償支援開始し、調査分析開始（2011年10月～）
- 在宅医療調査開始（12年7月）
- 在宅医療サービス検証、KFC様へのサービス導入（14年4月）
- 見守り等の釜石市包括ケア支援事業への参画（14年8月～）

III 遠野市；被災地への連携交流拠点

- 製販合同でのみらい創りキャンプ開始（12年11月～）
- 新入社員研修実施（13年4月）
- みらい創り活動報告、カレッジプロジェクト始動（同年8月）
- 遠野みらい創りカレッジ開校（14年4月）

IV 久慈市；今後の災害対策計画地域（被災は軽微）

- 久慈医療圏への検証開始（12年7月～）
- 災害に強い医療圏を目指した協議会立上げ（13年4月～）
- 再整備事業申請合意/予算確定/15年2月に決定



釜石での在宅医療支援活動

- 被災地の医師会・医療機関へのヒアリングを通じ、地域医療の課題を特定
- 在宅・訪問診療業務における課題解決のための患者記録の統合管理/運用案をご提示
- 運用検証において有効性の評価を実施

在宅医療支援サービス；コンセプト創造→試作→検証→運用

- 1.紙と電子の区別なく、患者記録を一元的に管理/運用することができる
- 2.夜間等の緊急コールの際、院内の患者記録に外部からアクセスできる
- 3.患者のケアに必要な記録類を、手間無く安全に必要な相手に送ることができる
- 4.災害時の診療継続のために患者記録をバックアップ及び復元することができる



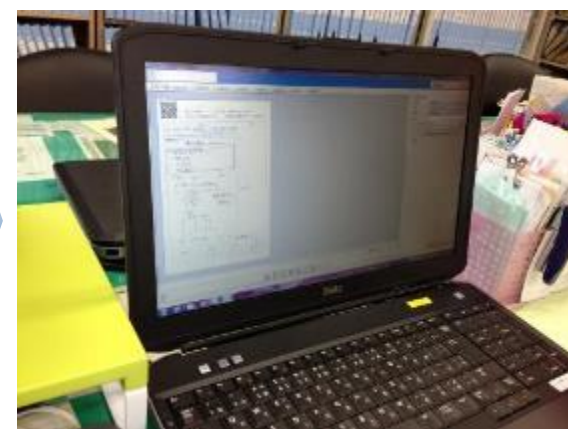
診療準備
(ダウンロード)



訪問診療
(記載と閲覧の分離)



登録
(スキャン)



確認
(紙と電子の融合)

遠野みらい創りカレッジ 設立の経緯

遠野市内中学校の再編計画

- 8校あった中学校の3校への集約再編後の効果的な活用が、行政側の課題となっていました



カレッジ設立のポイント

- カレッジ運営プログラムの誕生には、「みらい創りキャンプ」を通じた地域の多様な方々との対話による“関係性の質向上”が基盤となりました

富士
ゼロックス
他企業
大学
研究機関

- 顔の見える復興推進活動
- 被災地域のみらい創り活動

- 被災地を支援した遠野市でのみらい創り活動

コミュニケーション技術の活用
「みらい創りキャンプ」

遠野市
コミュニティ
NPO
NGO

- 温もり分かち合い、進化し続けるプロジェクト

- 故郷の文化を育むまち創り
- みんなで考え支え合うまち創り

事業化に向けたコンセプト創造

ふれあうように学ぶ場

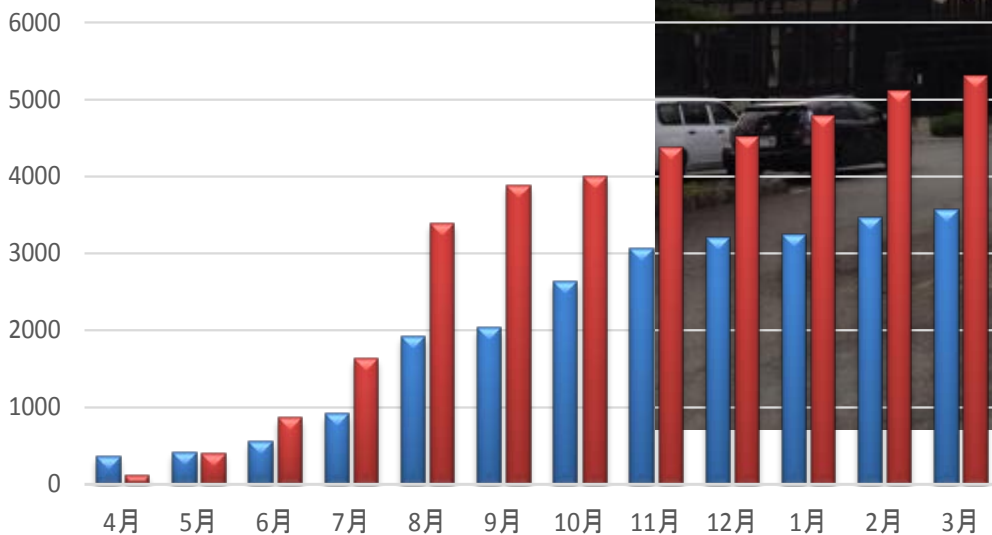
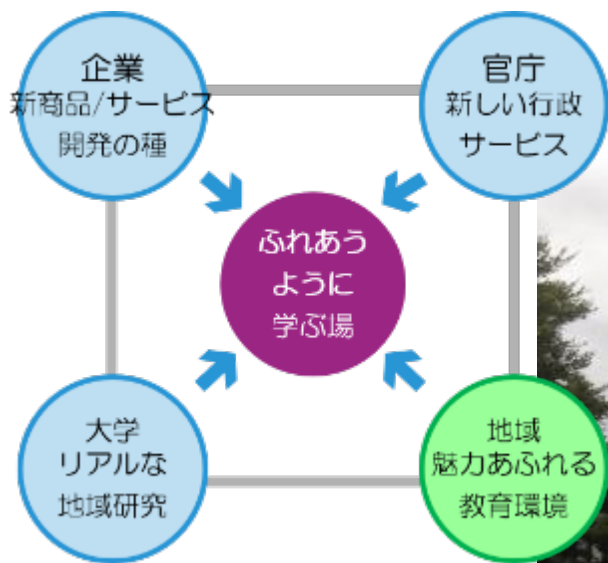
遠野みらい
創りカレッジの誕生

永遠のふるさと
遠野の魅力の情報発信拠点

コミュニティの創意形成

2014年4月8日、みらい創りカレッジ開校

- 交流人口を増やしながら、地域の未来を考えるプログラムを運営しています



■ H26年度

■ H27年度

© 2017 Fuji Xerox Co., Ltd. All rights reserved.



現在の運営プログラム

- 交流・暮らし文化・産業創造の3カテゴリーで、主に6項目のプログラムを運営
- 多様な企業との交流/地域リーダーの育成と登用に主眼を置いたプログラムを開発

区分	プログラム		実践カリキュラム概要
	NO	名称と内容	
交流	1	地域貢献	自然や伝統文化を大切にするための交流促進活動
		域外連携	食や芸術・スポーツを題材とした連携促進活動
	2	地域交流/研修	カレッジ施設や市内フィールドを活用した交流や研修
暮らし文化	3	国際連携	・高校1-2年生向けプログラム「i-Club Summer Program」；東京大学
		中高一貫プログラム	・高校3年生向けプログラム「みらい創り希望塾」 ・アートによる地域創生プログラム「遠野カンタービレ」；東京藝術大学
		ソフトウェア技術体験	・小中学生向けプログラミング学習検証
	4	地域リーダー育成	みんなの未来創造プログラム（未来新聞/プロジェクト計画作成を地域の実情に即して学習）；by ウィルウィンド
		防災・減災研究	災害時後方支援拠点研究/防災・減災フォーラム
	5	地域創生	テレワーク推進
高齢者視点のまち創り		「遠野ヘルスケアラボ」；高齢者に優しいまち創り（エーザイ）	
産業振興	6	遠野型リビングラボの実践	・慶應義塾大学大学院リーディングプログラム in 遠野 ・法政大学；中心市街地等の活性化に向けたタクティカルアーバニズムの実践
		カレッジ発遠野型産業創造の実践	・カレッジ施設の利活用による産業振興支援；食育カフェ敷設PJ推進；実験栽培/加工品開発./マルシェ ・地域プロジェクト；地域合同会社による新規事業開発
		農林業に着目した地域おこし実践活動	・森林資源を利活用したまち創り；中央大学×市内木工関係者 ・ホップ和紙/木工技術/印刷技術等の連携した商品開発

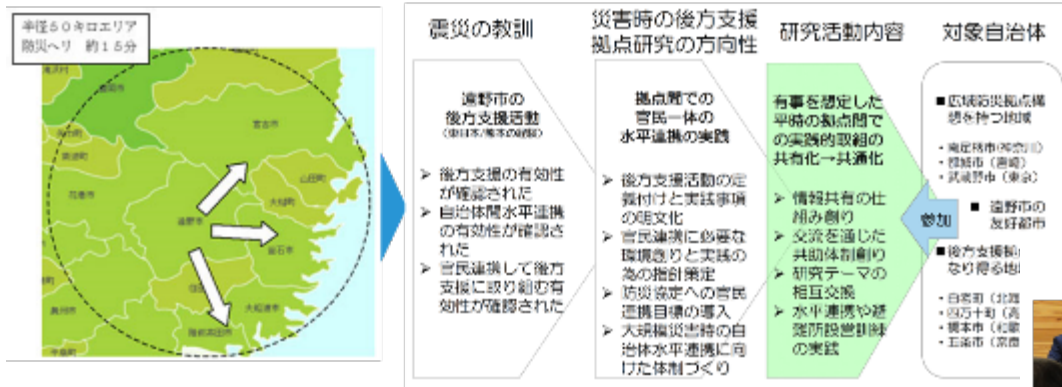
遠野カレッジでの災害時後方支援拠点研究

- 2016年は、より実践的な取り組みとして、災害時の避難所設営ワークショップを実施。15自治体のほか、遠野市の自主防衛組織が参加。



今年度の後方支援拠点/防災・減災研究

②研究活動の位置づけ



今年度のサマースクールとフォーラムの進め方

③これまでの研究会へ参加された自治体

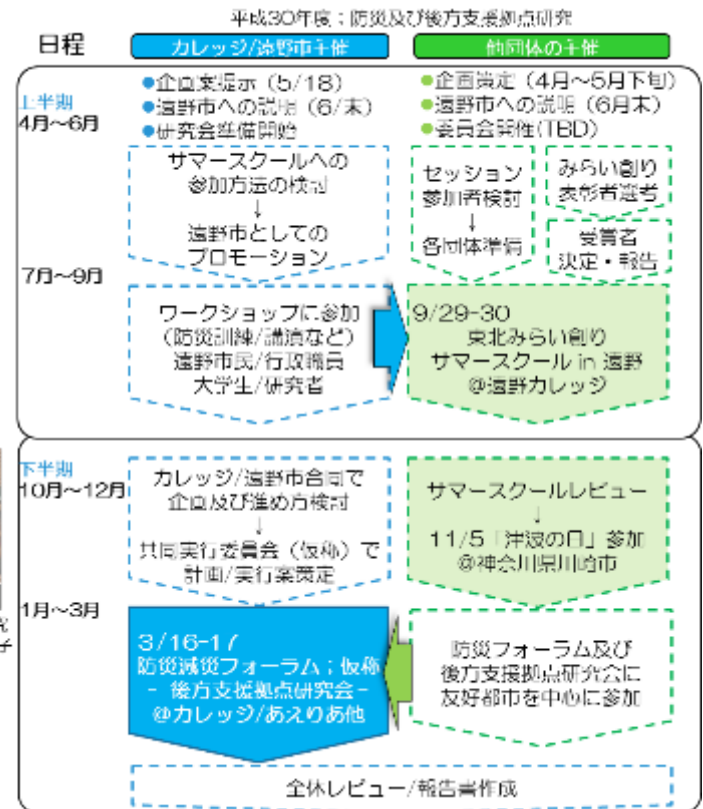
- ① 閉校活用に関心のある自治体(南定納市・木台町など)
- ② 武蔵野市交流市町村協議会(遠野市、酒田市、武蔵野市、南房総市、長岡市、川上村、安曇野市、南砺市、石巻市、大崎上島町)
- ③ 遠野市とその友好都市(武蔵野市、菊池市、西米良村、三鷹市、人形市、裾崎町)
- ④ 後方支援自治体の防災担当者や消防団、地域自治会、地域自主防災隊など
- ⑤ 後方支援活動に取り組む自治体(福布市、読谷村、都城市、宝塚市、大仙市、横手市、南丹後市、登米市、大崎市、四万十町等)
- ⑥ カレッジ運営に興味のある自治体(白老町、等)



第3回東北みらい創りサマースクールでの表彰者によるパネルディスカッションの様子



第1回災害時後方支援拠点研究会でのディスカッションの様子



今後の計画
；南足柄市カレッジでの活動

震災に学ぶ復興推進の他地域展開

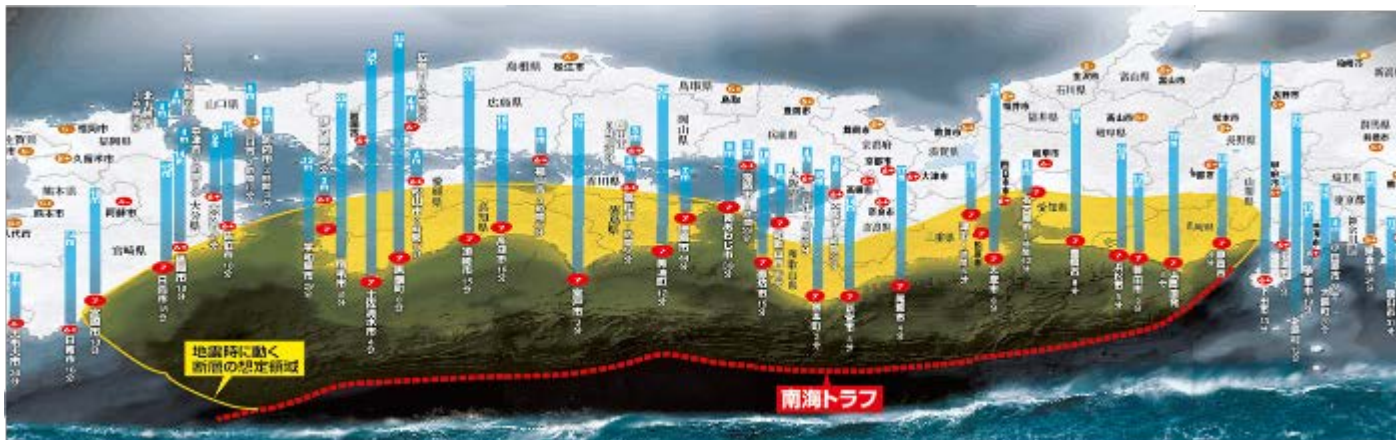
命題 災害がおきてからではなく災害がおきるまえに企業としてなすべきことは何か？

※ 熊本での経験を踏まえ、早急に未着手地域への働きかけもおこなう

岩手県でのコミュニケーション技術を活用した復興推進活動



相模湾；神奈川県西地区



補：後方支援拠点としての要件 (地勢/立地、FX拠点/他拠点との連携)

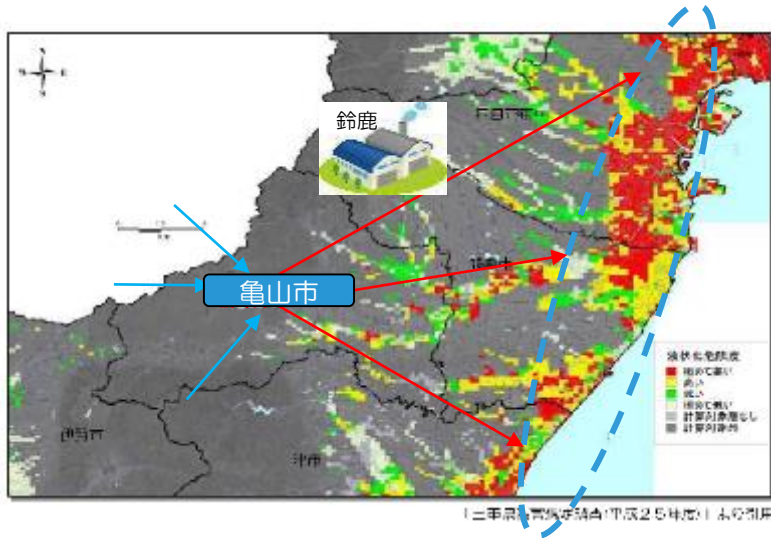
- ◆ 自地域の安全を確認した後、被災現場に提供する資源（人/物/金/情報）の中継拠点としての機能を果たす
- ◆ 機能や物資を集積させ、他地域と水平連携しながら間接的な支援を実施する

要件区分	後方支援拠点としての要件
南海トラフの被害想定	・津波・震度の被害が小さいと予測され、歴史的にも検証される地域
地盤の堅牢性	・ロケーションが高台や内陸部にあること ・活断層の有無や固さなど
被災地との近接性	・沿岸被災地からの距離（50km程度）
交通アクセスの多重性	・後方からの物資輸送用や、被災地への支援アクセスのための道路ほか交通手段が単一ではなく、複数あること
他地域との水平連携による防災協定締結	・遠野または南足柄のとの防災協定を締結し、地域間での水平連携を展開中（または検討中）



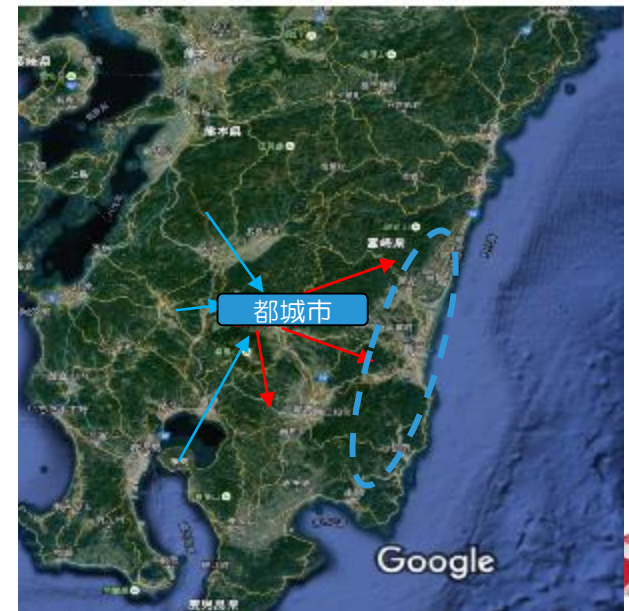
補；今後の後方支援拠点地域開発に向けて（例）

➤ 三重県亀山市、宮崎県都城市の地勢・立地条件のデータ



要件区分	亀山市
南海トラフの被害想定	<ul style="list-style-type: none"> 震度6弱程度（過去のデータより） 歴史的には、1707年宝永大地震で沿岸に津波被害が想定される（津市約7M）
地盤の堅牢性	<ul style="list-style-type: none"> 市役所鈴鹿峠を超えた内陸部 活断層は北部と中部（養老/桑名/四日市、布引山）
被災地との近接性	<ul style="list-style-type: none"> 四日市/鈴鹿/津などからは直線距離では80km以内
交通アクセスの多重性	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道；JRで奈良、四日市と結ばれる 道路；新名神と名阪で畿内と、伊勢湾岸で中部と繋がる

要件区分	都城市
南海トラフの被害想定	<ul style="list-style-type: none"> 震度6弱程度
地盤の堅牢性	<ul style="list-style-type: none"> 内陸部 活断層は知られていない
被災地との近接性	<ul style="list-style-type: none"> 宮崎市や日南市まで40km以内
交通アクセスの多重性	<ul style="list-style-type: none"> 後方および被災予測地に複数の国道がある交通の要衝 40km圏内に鹿児島空港と宮崎空港がある



平成30年度 プログラムの概要

プログラム領域とその目的

- I 交流・協働 地域コミュニティ組織の活動や協働事業の支援を通じて、地域支え合いまちづくり活動の活性化を図る
市民自らが地域課題解決や活性化計画を立案・実践することで、地域の暮らしやすさの向上を図る
- II 人材育成 地域課題を解決するプログラムに参画して学びあう事で、自らで地域の課題を解決することができる人材を創出する
- III 防災 地域の人々が防災意識を継続的に高め合うことを通じて、自主防災組織のより円滑な運営と実践を支援する
地域に暮らす人々が広域防災を実践し、南足柄市を核とした「広域防災県西モデル」を構築する

領域	プログラム	プログラム概要	担当	予算	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
I 交流・協働	市民協働によるまち創り活動	地域コミュニティ組織の活動や協働事業の支援 ※H30年度は企画を再検討して実施	南足柄市民協働	800	企画 地域登壇活性化 済み	高齢者 オンラインネット 済み	音楽ワークショップ By MEP	
	協働における自治や集団活動の活性化	ネットワーク形成とプロジェクト特定	FX 技術T	100		企画設計	オープンカレッジ (11/30-12/2:仮) 対話会①	対話会② 対話会③
II 人材育成	地域課題解決プログラム「SDGsを念頭にした県西実験Field」		WW 畠田	1,000	企画設計	事前検証	本セッション 9月 10月 提案/発表(仮)	レビュー 神奈川県/SFC等と連動した発表会方式
	国際交流等を通じた次世代人材育成「パーマカルチャーの創造」		BL デニス		企画設計	プレ検証 7月 実践 8月 17-19日	レビュー 高校生による発表会形式 ※遠野カレッジと連動	
	富士ゼロックス&横浜国立大連携実践「地域・起業」プログラム		YNU &FX		企画設計	実践「地域と起業」 8月 8-10日	レビュー リッキーBSと連動した発表会方式(検討)	
III 防災	大規模災害時の広域連携における研究	広域防災力強化 広域防災のワークショップ及び研究会	FX 技術T	600	企画設計	第1回-第2回広域防災WS 9/2 石原/出田地区 津波防災の日	広域防災研究会 10/20-11/5 11/7 レビュー	次年度準備タスク
	地域防災力強化 地域で学ぶ「防災アカデミー」		外部 コンサル		※ワークショップ形式に設計 ②ダンボールジオラマ 7/27 7/14 8/4 8/25 12/1 2/16 地区報告会			

